

アレルギー疾患対策医療学



藤田医科大学医学部
アレルギー疾患対策医療学講座

[教授挨拶](#)[講座メンバー](#)[研究情報](#)[業績一覧](#)[Q&A](#)[有益情報](#)[アクセス](#)[リンク](#)[MINERVA](#)[教授挨拶](#)

藤田医科大学医学部
アレルギー疾患対策医療学講座
教授 / 医師・医学博士
松永 佳世子

自己紹介

松永 佳世子（まつなが かよこ）

1951年1月24日 小豆島生まれ 73歳

藤田医科大学医学部アレルギー疾患対策医療学 教授

一般社団法人SSCI-Net理事長

医学博士 日本皮膚科学会専門医

日本アレルギー学会専門医・指導医



【学歴】

1969.6米国New Jersey州Rumson Fair Haven Regional High School卒業

1970.3香川県立小豆島高等学校卒業

1976.3 名古屋大学医学部卒業

【職歴】

1976.5-1977.3 三菱名古屋病院研修医

1977.4-1978.3 名古屋大学医学部附属病院皮膚科研修医・医員

1978.4-1980.3 名古屋保健衛生大学医学部皮膚科助手

1980.4-1991.3 名古屋大学附属病院分院皮膚科医員

1991.4-2005.4 藤田保健衛生大学医学部皮膚科学 講師

2000.5-2016.3 藤田保健衛生大学医学部皮膚科学 講座教授

2009.2-2012.1 藤田保健衛生大学病院 副院長

2014.4-2016.3 藤田保健衛生大学副学長

2016.4～現職

【専門分野】接觸皮膚炎、皮膚アレルギー、化粧品の安全性研究

【所属学会と主な役職】

2006.9-現在 International Contact Dermatitis Research Group 班員

2022.7-現在 日本職業・環境アレルギー学会 監事

日本皮膚科学会（元理事 名誉会員）

日本皮膚免疫アレルギー学会（元理事長、名誉会員）

日本アレルギー学会（前代議員 功労会員）

日本美容皮膚科学（元理事 名誉会員）

【行政関係役職】

独立行政法人民生活センター 商品テスト分析・評価委員会 専門委員

※2020.6 消費者支援功労者表彰「内閣府特命担当大臣表彰」受賞

講座メンバー (R1年4月1日現在)

<専任>

- 講座責任者／教授
 - 松永佳世子（医師・医学博士）
- 看護師
 - 久野千枝
- 研究補助員
 - 枝松栄子
 - 宮野かな



<客員>

- 客員教授
 - 檜垣祐子（医師・医学博士）
 - 若松町こころとひふのクリニック院長／元東京女子医科大学教授
 - 伊藤浩明（医師・医学博士）
 - あいち小児保健医療総合センター副センター長兼総合診療科部長
 - 伊藤明子（医師・医学博士）
 - ながたクリニック副院長／新潟大学医歯学総合病院皮膚科特任准教授
- 客員准教授
 - 中村政志（博士（医学））
 - 下條尚志（博士（医学）・臨床検査技師・細胞検査士）
- 客員講師
 - 杉山真理子（博士（工学））／SSCI-NET事務局長
 - 堀田琴美（博士（医学）・薬剤師）／池田模範堂
- 客員助教
 - 青木祐治（弁理士・研究生（呼吸器内科学Ⅱ））
 - 佐藤奈由（臨床検査技師）
 - 大庭美帆（医師）／刈谷整形外科病院 皮膚科
- 客員助手
 - 大野史晃
 - 長谷川英里香
 - 酒井智美



ホーユー(株)関連研究

共同研究：MINERVA研究

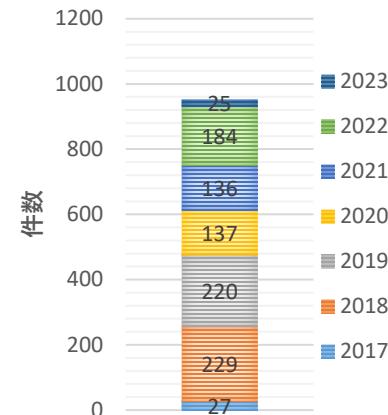
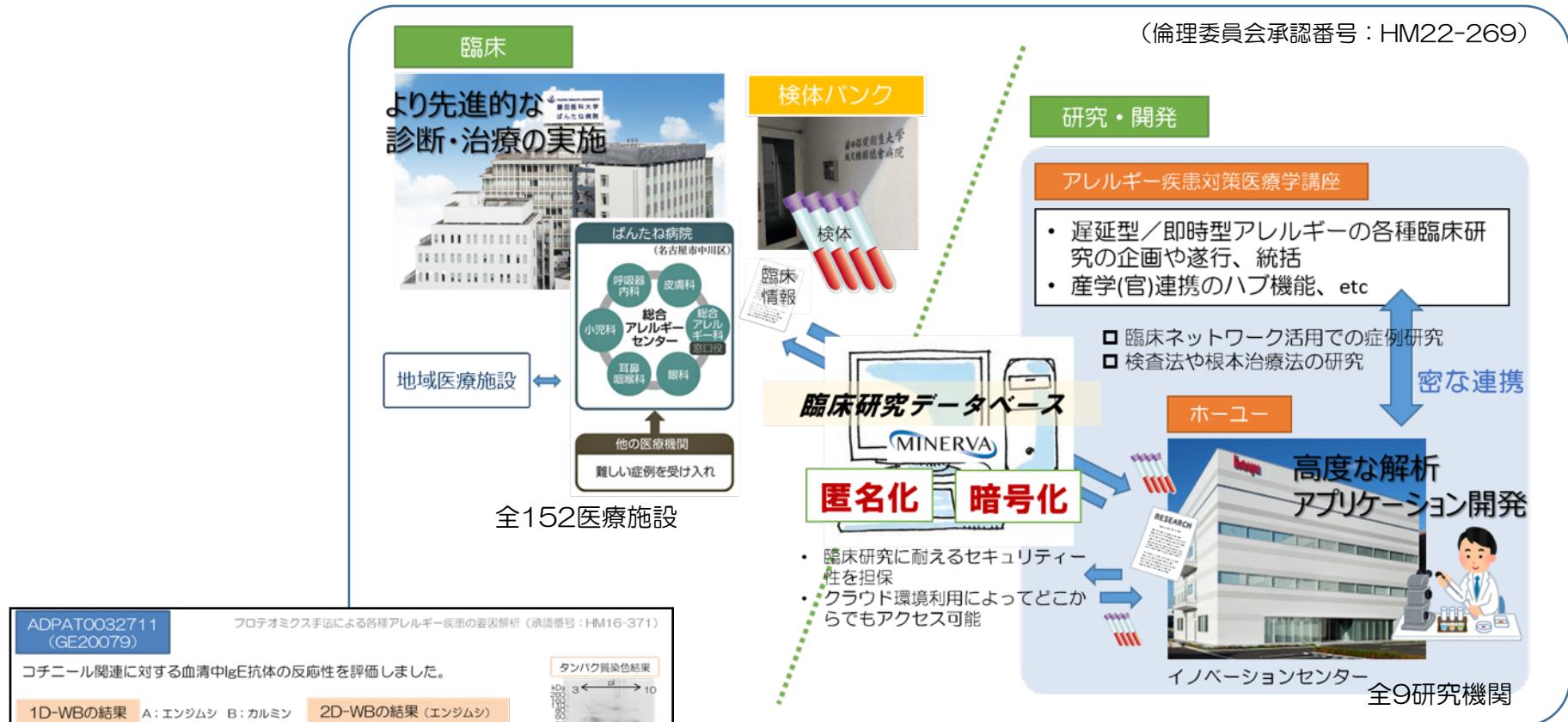
パッチテストAI研究

受託研究：ヘアカラー安全性研究



“プロテオミクス手法による各種アレルギー疾患の要因解析” 関連の進捗

(倫理委員会承認番号：HM22-269)

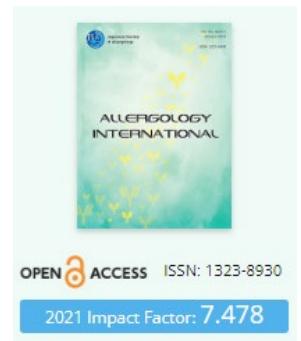


- ・ 診療現場で研究結果が参考となった累計解析数（2017年～現在）は約960件。
- ・ この研究に関連した2022年度の学会発表は22件、論文掲載は9件であった（次スライド参照）。現在進行形で、複数の論文投稿を行っている。

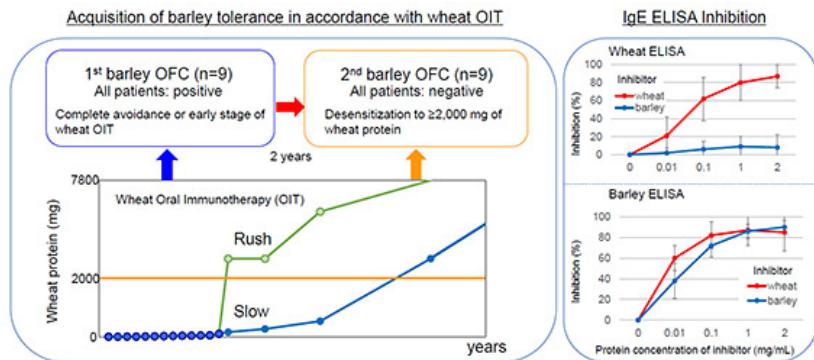
2022年度に公開された論文2件は、Editor's Choices に選ばれるなど、高い評価を得た

【英文】

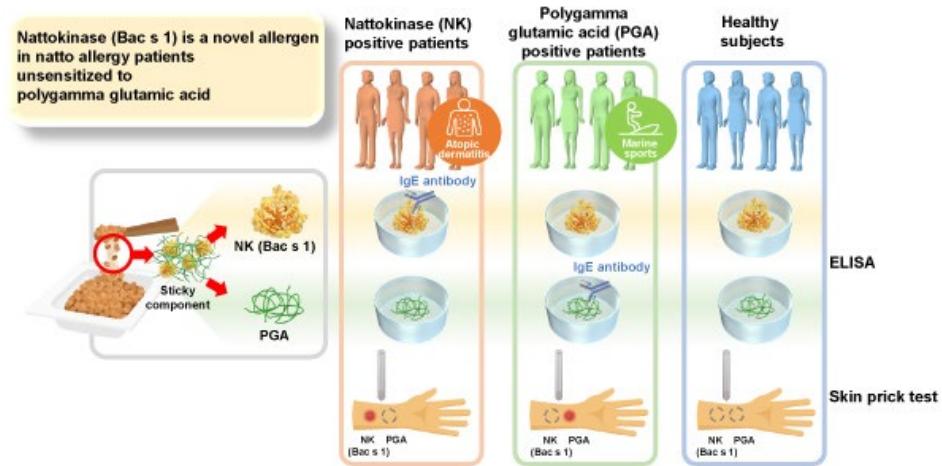
- The clinical cross-reactivity and immunological cross-antigenicity of wheat and barley. Shohei Kubota, Yuji Aoki, Tomomi Sakai, Katsumasa Kitamura, Teruaki Matsui, Yoshihiro Takasato, Shiro Sugiura, Masashi Nakamura, Kayoko Matsunaga, Komei Ito. Allergol Int. 2022 Oct;71(4):505-511. doi: 10.1016/j.alit.2022.05.008. Epub 2022 Jun 29.
- Nattokinase, a subtilisin family serine protease, is a novel allergen contained in the traditional Japanese fermented food natto. Kayoko Suzuki, Masashi Nakamura, Nayu Sato, Kyoko Futamura, Kayoko Matsunaga, Akiko Yagami. Allergol Int. 2022 Dec;12:S1323-8930(22)00135-6. doi: 10.1016/j.alit.2022.11.010. Online ahead of print.



Barley allergy associated with wheat allergy is caused by cross-reactivity from wheat



Editor's comment: Some patients with wheat allergy show clinical cross-reactivity to barley. Kubota *et al.* examined the clinical cross-reactivity and immunological cross-antigenicity of wheat and barley in patients with wheat allergy to address whether the development of barley allergy in these patients is due to cross-antigenicity between wheat and barley. They found that nine patients who had positive results for oral food challenge (OFC) for barley all became negative on barley-OFC after oral immunotherapy (OIT) for wheat. These findings suggest that barley allergy associated with wheat allergy is caused by cross-reactivity from wheat and that the OIT for wheat is a promising option for barley allergy.



Editor's comment: Natto, a famous Japanese dish prepared by fermenting soybeans, can sometimes cause anaphylaxis. Epicutaneous sensitization to poly-γ-glutamic acid (PGA) by jellyfish stings is known to contribute to the sensitization to natto. Suzuki *et al.* examined the antigenicity of nattokinase, a subtilisin family serine protease, in patients who had natto allergy but were negative to PGA on a skin prick test. They found that a substantial number of PGA-non-sensitized patients were sensitized to nattokinase.

さらに、Nattokinase を “Bac s 1” と命名し、国際標準であるアレルゲンデータベース (WHO/IUIS) に登録することができた。

ALLERGEN NOMENCLATURE	
WHO/IUIS Allergen Nomenclature Sub-Committee	
Home	Search
This View	Publications
Cards	Epitopes
Editorial Committee	Submission Form
FAQ	Log In
Bacteria Firmicutes Bacteria Archaeal auto Bac s 1	
Allergen Details:	
Allergen name:	Bac s 1
Allergen group:	Major taxonomic group: Bacteria Firmicutes
Allergen source:	Order: Bacillales Species: Bacillus subtilis (Hay ceoillus)
Biochemical name:	Nattokinase (subtilisin-like serine protease)
MW/SDS-PAGE:	30 kDa
Allergenicity:	Eggs patients with IgE-mediated food allergy to natto (soybeans fermented with <i>Bacillus subtilis</i> natto) were tested. All patients had immediate allergic reactions after ingestion of natto as well as positive SPT with natto. Of these patients, 49 (50%) had IgE to a 30 kDa protein from natto as well as from an extract from cultured <i>B. subtilis</i> natto. Moreover, all sera reacted to nattokinase in ELISA. Three patients were also tested with purified nattokinase SPT and showed a reaction to the protein. Purity of the purchased nattokinase was confirmed by mass spectrometry.
Allergenicity reference:	Published 2021/11/17
Route of antigen exposure:	Food
Date Created:	2023-01-11
Last Updated:	2023-01-11 17:31:24
Submitter Info:	
Name:	Masashi Nakamura
Institution:	Fujita Health University, Integrative Medical Science for Allergic Disease, Hoyu co., ltd, General Research and Development Institute
City:	Nagoya, Japan and Nagakute, Japan
Email:	masaka@fhi-hu.ac.jp , masashi_nakamura@hoyu.co.jp
Submission Date:	2022-11-06

講座独自の研究

接触皮膚炎と化粧品等の皮膚安全性研究

AMED・特定臨床研究

「化粧品等のアレルギー確認方法確立に関する研究」
「化粧品等のアレルギー成分確認方法の開発と標準化、
普及に向けた研究」

SSCI-Net

- 皮膚健康被害症例の症例情報収集と分析

受託研究

- ロドデノール誘発性脱色素斑の調査研究
- ヤクルト新規化粧品の安全性試験



課題管理番号：21mk0101142h0003

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）

医薬品等規制調和・評価研究事業

「化粧品等のアレルギー成分確認方法の開発と標準化、普及に向けた研究」

研究開発代表者 松永佳世子

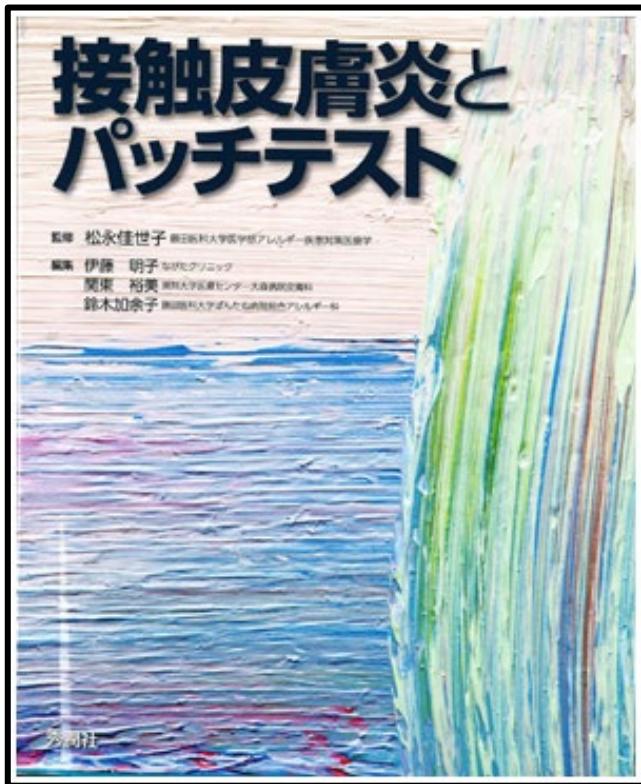
化粧品成分21種のパッチテスト結果 化粧品シリーズ 11種選定

No.	成分表示名称(INCI)	成分表示名称(和名)	CAS.No	推奨	
				PT濃度(%)	PT基剤
1	3-O-Ethyl-ascorbic acid	3-О-エチルアスコルビン酸	86404-04-8	10	aq
2	Arbutin	アルブチン	497-76-7	10	aq
3	Butylene glycol	BG	107-88-0	10	aq
4	Cocamidopropyl betaine	コカミドプロピルベタイン	61789-40-0	1	aq
5	Diisostearyl malate	リンゴ酸ジイソステアリル	67763-18-2 81230-05-9	30	pet
6	Dipropylene glycol	DPG	110-98-5 25265-71-8	10	aq
7	Glyceryl isostearate	イソステアリン酸グリセリル	61332-02-3 66085-00-5	20	pet
8	Methylisothiazolinone	メチルイソチアゾリノン	2682-20-4	0.2	aq
9	Propylene glycol	PG	57-55-6	30	aq
10	Sorbitan sesquioleate	セスキオレイン酸ソルビタン	8007-43-0	20	pet
11	Tocopheryl acetate	酢酸トコフェロール	52225-20-4 58-95-7 7695-91-2	10	pet

- 2018年から2021年3月までの間に化粧品によるアレルギーを疑った535例の臨床像、パッチテスト結果、最終診断を行い、220例の化粧品によるアレルギー性接触皮膚炎(CosACD)の症例を収集することができた。
- 20成分の陽性頻度と臨床との関連性を検討した結果、11成分を今後共同研究でパッチテストすべき化粧品シリーズとして選定した。
- CosACDの36.8%が21成分で、33.2%が11成分で原因を確認することができた。
- Japanese baseline series と21成分を同時に貼付すると59.1%, 11種で55.5%のCosACDの原因を確定することができた。
- 化粧品のアレルギー成分を迅速に確定するには、予測される成分のパッチテスト試薬を常備して、製品とともにパッチテストすることが迅速な原因確定に重要であることがわかった。
- 化粧品等によるアレルギーの原因を確定するには、企業より成分提供を受け成分パッチテストを推進することも、さらなる成分の確認に重要と考えた。

化粧品等のアレルギー成分確認方法多職種のガイダンス作成

監修した接触皮膚炎の教科書



2019年3月刊行 税別9,000円



2022年5月刊行 税別 9,000円

製品別でみる接触皮膚炎-原因アレルゲンと代替品-

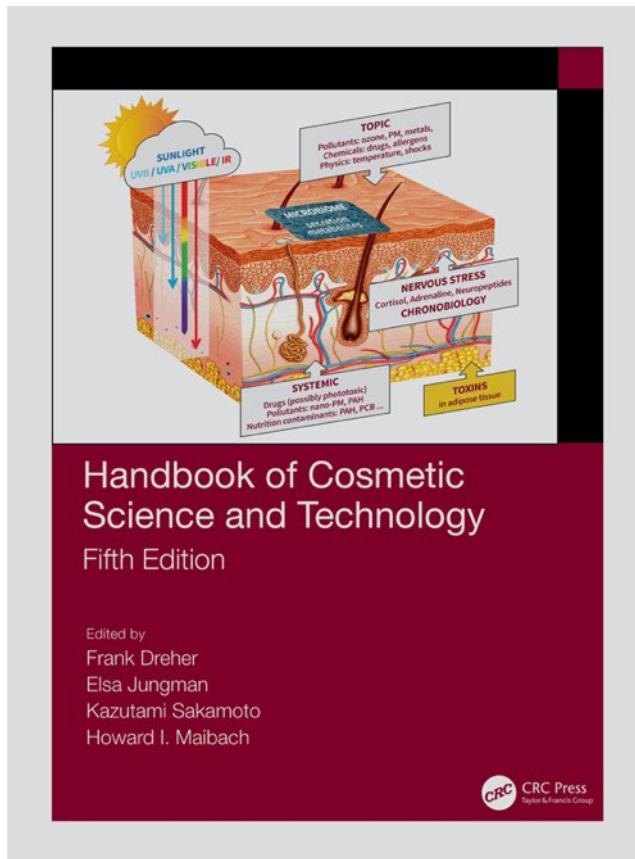
【監修】

松永 佳世子（藤田医科大学医学部アレルギー疾患対策医療学 教授）

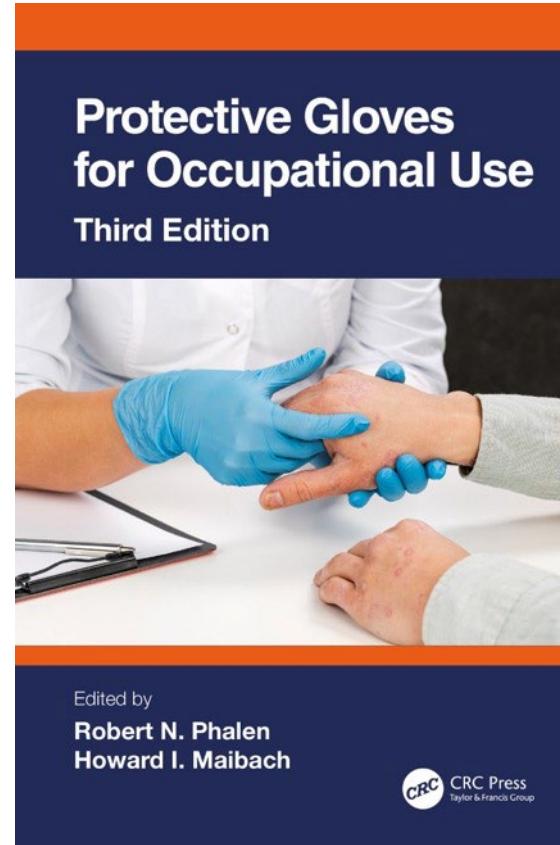


◎製品別に原因アレルゲンを確定し、これを含まない代替品の選択を解説！

英語の教科書に分担執筆 2件



2022年
8月出版



2022年
11月
出版

8. Contact dermatitis: Principles, mechanisms, and allergies related to cosmetics

K. Matsunaga, S. Aiba, and A. E. Goossens

7. Japanese regulations and standards for medical and dental gloves

K. Matsunaga, T. Ohhara, A. Takeuchi,
R. Nakaoka, and Y. Haishima

業績（外部獲得資金）

- 科学研究費助成事業(代表：二村恭子)
基盤研究(C) R3年度～R5年度研究課題：GRPが関与する果物アレルギーの病態解析
 - 研究経費：4,030千円
- AMED：医薬品等規制調和・評価研究事業 R1年度-R3年度
 - 研究課題：化粧品等のアレルギー成分確認方法の開発と標準化、普及に向けた研究
 - 研究経費：12,705千円
- 科学研究費助成事業 基盤研究(C) H29年度～R1年度
 - 研究課題：小麦依存性運動誘発アナフィラキシーの原因遺伝子解析とそれに対応する小麦品種の探索
 - 研究経費：4,550千円
- AMED：医薬品等規制調和・評価研究事業 H28年度-H30年度
 - 研究課題：化粧品等のアレルギー確認方法確立に関する研究
 - 研究経費：3,000千円
- AMED：医薬品等規制調和・評価研究事業(代表：安達玲子) 、H27年度-H29年度
 - 研究課題：医薬部外品及び化粧品配合成分の安全性確保のための規格等に関する研究
 - 研究経費：2,550千円
- AMED：免疫アレルギー疾患等実用化研究分野 H27年度
 - 研究課題：経皮感作による重篤な小麦アレルギーの病態解明並びに予防法の確立
 - 代表者又は分担者の別：分担
 - 研究経費：14,641千円

業績（外部獲得資金）

- AMED：医薬品等規制調和・評価研究事業 H26年度-H28年度
 - 研究課題：皮膚適用の医薬品等成分による有害事象の機序解明・予測手法の開発のための研究
 - 研究経費：3,020千円
- 科学研究費助成事業 若手研究(B) H28年度～H30年度
 - 研究課題：ハイブリッドペプチドを用いた魚アレルギー免疫療法の開発
 - 研究経費：4,160千円
- 受託研究：ヘアカラー工業会 H29年度～H30年度
 - 研究課題：ヘアカラーの皮膚アレルギー試験（セルフテスト）における被験物質適用方法の最適化に関する検討
 - 研究経費：3,500千円
- (公財)ニッポンハム食の未来財団 H28年度
 - 研究課題：プロテオミクス的手法を用いた魚アレルギーの新規診断マーカーの確立
 - 研究経費：1,600千円

その他、様々な受託研究費・奨学寄附金有り。

特許関連

赤字は2023年度の進捗部分

食材等	発明の名称	日本国内出願	海外出願
うずら卵	うずらの卵アレルギーの抗原	出願済 2015/05/25 登録 2016/03/04	出願済 2016/05/25 米、欧、中、韓に移行済 2020/04/10 韓国登録 2022/02 米国登録
大豆	大豆アレルギーの抗原 (エピトープ含む)	出願済 2016/03/03 登録 2022/03/16 登録 2022/05/20	出願済 2017/03/03 米、欧、中、韓に移行済 2021/11/19 韓国登録 2022/07/15 中国登録 2022/11/25 韓国登録
ラテックス	ラテックスアレルギーの抗原 (エピトープ含む)	出願済 2020/04/06	出願済 2020 米、欧、中、韓 直接出願
鶏卵	卵アレルギーの抗原 (エピトープ含む)	出願済 2016/06/02 登録 2018/06/29 登録 2019/04/19 登録 2019/09/06	出願済 2017/06/02 米、欧、中、韓に移行済 2021/07/08 韓国登録 2022/04/12 中国登録 2022/07/15 韓国登録 2023/05/15 韓国登録
魚	魚アレルギーの抗原 (エピトープ含む)	出願済 2016/06/16 登録 2021/01/29 登録 2022/03/10 登録 2023/04/03	出願済 2017/04/28 米、欧、中、韓 直接出願 2021/11/11 韓国登録 2022/07/01 中国登録 2022/11/03 韓国登録
えび	エビアレルギーの新規抗原 (エピトープ含む)	出願済 2017/04/28 登録 2022/11/28	出願済 2017/12/06 米、欧、中、韓に移行済
小麦	小麦アレルギーの抗原 (エピトープ含む)	出願済 2019/06/13 登録 2024/01/15	出願済 2020/06/11 米、欧、中、韓 直接出願
脱アミド化小麦	感受性又は抵抗性識別方法	出願済 2017/06/14 登録 2021/06/22	-
牛乳	牛乳アレルギーの抗原 (エピトープ含む)	出願済 2021/03/31	出願済 2022/03/30 米、欧、中、韓 直接出願

業績紹介

英文論文 65件

2015年	4件
2016年	9件
2017年	9件
2018年	7件
2019年	10件
2020年	12件
2021年	12件
2022年	10件
2023年	6件
2024年	4件

邦文論文 68件

2015年	6件
2016年	11件
2017年	13件
2018年	13件
2019年	3件
2020年	8件
2021年	2件
2022年	6件
2023年	5件
2024年	1件

業績紹介

国際学会発表 16件

2015年	2件
2016年	4件
2017年	2件
2018年	3件
2019年	0件
2020年	0件
2021年	0件
2022年	3件
2023年	2件

国内学会発表 294件

2015年	19件
2016年	23件
2017年	40件
2018年	33件
2019年	47件
2020年	29件
2021年	39件
2022年	31件
2023年	33件

消費者支援功労者表彰（内閣府特命担当大臣表彰）に選ばれました

令和2年度 消費者支援功労者表彰 被表彰者等一覧

2. 内閣府特命担当大臣表彰 15件

(1) 個人(10件)

氏名	住所	職業・役職
まつなが 松永 佳世子	愛知県名古屋市	藤田医科大学名誉教授、同医学部寄附 講座教授 医師 一般社団法人SSCI-Net理事長 元消費者安全調査委員会委員



(敬称略)

主な活動実績

- ・消費者安全調査委員会(第1～2期)委員を務め、10事案についての調査・審議を行い報告書の取りまとめに尽力。
- ・製品事故の発生原因を科学的に究明し、得られた知見を事故の発生・拡大の防止につなげる仕組みを構築して、消費者行政の新たな取組や制度の整備に貢献し、情報発信の充実強化に尽力。

引用：消費者庁HP

(https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/public_awareness/gekkan/2020/pdf/consumer_education_cms202_200430_01.pdf)



藤田医科大学医学部・
アレルギー疾患対策医療学講座
終了研究報告会・記念講演会
～感謝と成果の振り返りと新たな未来へ～

2024年2月22日・23日 名古屋都市センター



藤田医科大学医学部・アレルギー疾患対策医療学講座
終了研究報告会・記念講演会～感謝と成果の振り返りと新たな未来へ～
2024年2月22日・23日 名古屋都市センター

謝 辞

- ・これまで、アレルギー疾患対策医療学講座の研究、運営にお世話になりましたすべての方に御礼申し上げます。
- ・ホーユー株式会社のアレルギー分野の事業化とヘアカラーの安全性向上を期待し、その一端を担えればと思います。このようなやりがいのある仕事ができる環境を提供してくださっている ホーユー株式会社 水野真紀夫 会長、佐々木義広 社長ならびに関係のみなさまへ心より御礼申し上げます。



謝 辞

総合アレルギーセンター
の先生方



井澤英夫
前病院長



堀口明彦
病院長

謝 辞

西棟研究室委員会
メンバー



謝 辞

共同研究医療施設

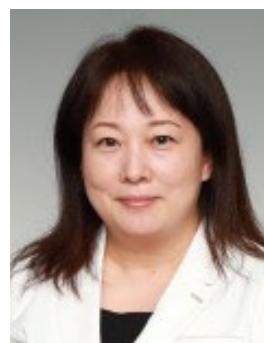
ばんたね病院総合アレルギー科



矢上晶子教授

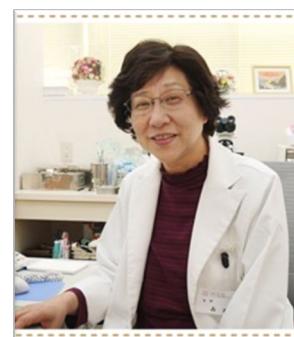


鈴木加余子准教授



二村恭子講師

山陽小野田市
ジョイ皮ふ科クリニック



西岡和恵先生



伊藤明子客員教授

新潟市
ながたクリニック

講座メンバー (2023年度)

＜講座責任者＞

- 皮膚科学講座 教授 杉浦一充

＜専任＞

- 教授
 - 松永佳世子
(医師・医学博士)
- 看護師
 - 久野千枝
- 研究補助員
 - 荒川智美

＜客員＞

- 客員教授
 - 檜垣祐子 (医師・医学博士)
 - 若松町こころとひふのクリニック院長／元東京女子医科大学教授
 - 伊藤浩明 (医師・医学博士)
 - あいち小児保健医療総合センターセンター長
 - 伊藤明子 (医師・医学博士)
 - ながたクリニック副院長／新潟大学医歯学総合病院皮膚科特任准教授
 - 成田宏史 (博士(農学))
 - 学校法人大和学園 京都栄養医療専門学校 教授／京都女子大学名誉教授
- 客員准教授
 - 中村政志 (博士(医学))
 - 下條尚志 (博士(医学)・臨床検査技師・細胞検査士)
 - 杉山真理子 (博士(工学))／SSCI-Net事務局長
- 客員講師
 - 堀田琴美 (博士(医学)・薬剤師)／池田模範堂
- 客員助教
 - 青木祐治 (弁理士・研究生:耳鼻咽喉科・睡眠呼吸学)
 - 佐藤奈由 (臨床検査技師)
 - 大庭美帆 (医師)／刈谷整形外科病院 皮膚科

謝 辞



＜講座責任者＞
皮膚科学講座
杉浦一充教授

藤田学園の関係の皆様
に心より感謝申し上げます

アレルギー疾患対策医療学



講座：久野千枝さん（看護師）、荒川智美さん（研究補助員）、と松永
枝松栄子さん と 石川東詩子さん（研究補助員として在籍されました）

4月から

刈谷整形外科病院 副院長

皮膚科・アレルギー科

・やさしい看護師さんたちと

「早く、きれいに、親切に
治す」

医療を続けていきます。



SSCI-Net理事長と
アレルギーの研究も続けます！

みなさまもどうかお元気で！

